

加速する出版流通システム

店売、外商、楽器の一元管理目指す ▷新システムへの移行◁ 煥乎堂

群馬県前橋市の煥乎堂は12月から新POSシステムを稼働した。出版物のほか文具、楽器など多様な取扱商品を一元管理することと、店舗別、部門別での損益を把握することで経営の効率化を目指している。

店売と外商を管理できる「Book Answer」を選択

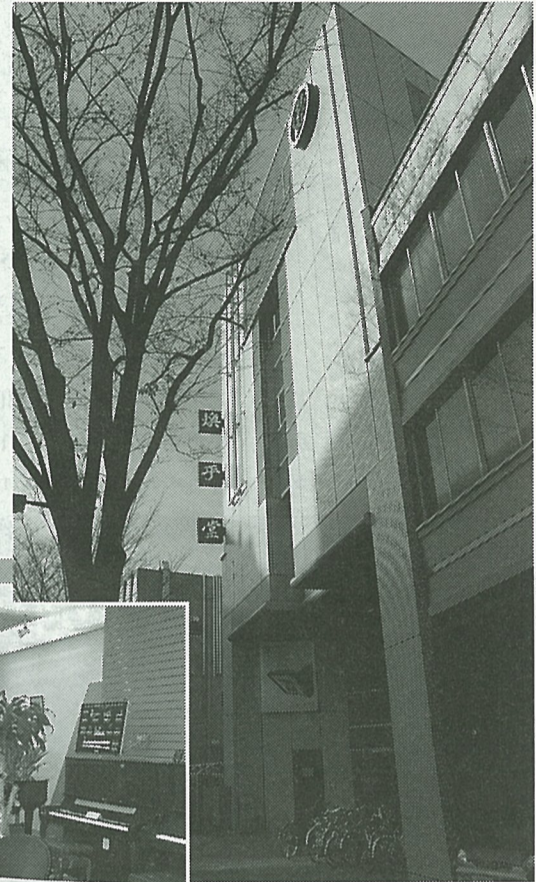
同社は800坪(出版物は550坪)の本店と250坪の群馬町店、4坪の県庁店の3店舗を展開するほか、外商、楽器販売、音楽教室運営も行っている。

システム面は、これまで会計を

中心とした基幹システムを自社開発し、書店部門のPOSは日本出版販売の「ミニトータルシステム」を利用してきた。

しかし、基幹システムのサポート期間が09年中に終了すること、また「ミニトータルシステム」が更新時期を迎えることを踏まえ、後継のシステムを検討した結果、店売と外

商の両方を一元管理できることや、将来的には楽譜、楽器など出版物以外の商材も含めて管理するための拡張性を重視し、光和コンピューターが開発・提供している書店システム「Book Answer」の導入を決めたという。



▲煥乎堂前橋本店外観

◀書籍・雑誌のほか、楽器なども手がける

▶シャープ製のPOSレジを9台導入した



08年5月期決算に向け順次稼働

同社の年商は約28億円。この内訳は店売8：外商10：楽器(音楽教室を含む)10という売上構成になる。

導入スケジュールは12月1日の上半期末の棚卸に合わせて新POSシステムを稼働し、来年2月に外商システムのスタートを予定。5月の年度末決算までに問題点を抽出し改善、6月からの新年度に本格稼働を目指している。

店舗システムはシャープ製のPOSレジを本店の1～4階売場と別館の文具売場に6台、群馬町店に2台、県庁店に1台の計9台を導入。サーバーは外部のレンタルサーバーを利用している。

導入コストは今後稼働を予定している外商システムも含め約1600万円。ランニングコストはシステム使用料15万円と取次各社から納品データを受け取るための費用20万円となっている。



小林社長「書店を続ける意思表示」

新システムへの移行目的について、小林卓郎社長は「売場の充実による商品回転率の向上などの効率化と、店舗ごとの収益を把握するため」と話す。

具体的には①発注・検品・在庫管理など商品運営の効率化②MDの充実による販売機会ロスの減少③資金の有効活用④部門別・個店別損益の把握——を目指しており、商品マスターの一元管理によって、外商が店舗から商品を抜き取った場合の仕入戻し処理の自動化や、棚詰め作業の標準化などにも取り組んでいく。

就任から2年半が経過した小林社長だが、近隣ではイオンモール高

新システムへの投資について「書店を続けていく意思があるから」と話す小林卓郎社長



崎への未来屋書店、けやきウォーク前橋への紀伊國屋書店の出店など競争が激化し、業績への影響は避けられない状況にある。

そんななかでの新システムへの投

資について、小林社長は「書店を続けていく意思があるから」と述べ、次のステップへの飛躍を目指している。

株式会社 煥乎堂

代表者＝代表取締役社長 小林卓郎
所在地＝

前橋市本町1丁目2番13号

創業＝明治初年

創立＝大正10年2月15日

資本金＝3000万円

従業員数＝約150名

営業品目＝書籍、地図、雑誌の小売、官報普及販売及財務省印刷局発行図書普及販売、企画出版業務、検定教科書の供給販売、楽器、教育楽器、LM楽器、楽書、CD、DVD、音楽教室、英語教室、貸スタジオ、事務用文具全般、学校教材教具、ギャラリー、ホール